

地域医療介護連携  
「モデル作り」から「本格運用」に向けて

2013年10月25日

メディカルアイ株式会社  
山口典枝

## 企業概要

	<p><b>社名</b> メディカルアイ株式会社</p> <p><b>設立</b> 2007年10月</p> <p><b>資本金</b> 48百万円</p> <p><b>株主構成</b> 山口典枝 株式会社ケイ・オプティコム(関西電力100%子会社)</p> <p><b>代表取締役</b> 山口典枝</p> <p><b>社員</b> 4名</p>	
<p><b>事業内容</b></p>	<p>医療情報の電子化推進と利活用を目指した</p> <p><b>クラウド型カルテサービス</b></p>	<ul style="list-style-type: none"><li>□コストパフォーマンスを追及</li><li>□離島・僻地や地理的に不便な地域などに、遠隔医療や遠隔服薬モニタリングなどを組み合わせてモデル提供</li><li>□クラウド型電子カルテをベースに、その他の用途のカルテも展開</li></ul>
<p>新たな医療・介護モデル作りを目指した</p> <p><b>コンサルティング</b></p>	<ul style="list-style-type: none"><li>□多職種連携や見守りなど、国が目指す方向性に合致したモデル事業を推進</li><li>□官公庁向け調査研究としては、海外調査も実施</li><li>□地域医療連携モデルにおいては、シナリオ作成から現場導入までを目指す</li></ul>	

## 実績一覧(1/2)

項番	名称	概要	年度
1	<b>経済産業省</b> 「地域見守り支援システム実証事業」 「医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出調査研究事業(地域見守り創出調査研究事業)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅患者・高齢独居者の見守りシステムを、長野須高エリアにおいてモデルを立案の上実行</li> <li>・地域見守り支援システムを継続させるためのビジネスモデルの検証</li> <li>・規制改革に向けて、遠隔服薬指導の在り方について模擬的实施の上検証</li> <li>・「地域お薬カルテ」としてパッケージ化</li> </ul>	平成21年度～23年
2	<b>北海道助成、栗山町</b> 「予防医療推進プロジェクト」 「母子管理システムの構築」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療用のクラウド型電子カルテを、町民の健康管理用として導入。すべての健診／検診結果だけでなく、保健師の指導内容や健康相談記録を統合管理</li> <li>・構築済みの町民の健康管理用カルテに、母子管理情報管理機能を加えて、乳幼児から高齢時まで全世代の住民の健康に関する情報を生涯蓄積できるように拡張</li> <li>・「地域健康カルテ」としてパッケージ化</li> </ul>	平成22年度～
3	<b>総務省</b> 「諸外国におけるEHRの現状及び課題に関する調査研究」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸外国(10カ国)におけるEHRの現状や課題に関する調査を、文献調査と訪問調査により実施。その結果を踏まえ日本におけるEHR推進の際の知見をとりまとめ</li> </ul>	平成22年度
4	<b>総務省</b> 「自治体クラウドにおける住民サービス向上のためのアクセス・認証方式等に関する調査研究」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の住民サービス向上の視点に立ち、自治体が保有する情報をクラウドサービス間で安全に流通及び活用するための機能要件等について調査・分析。「住民健康カルテ」を導入するとともに、ユーザビリティ検証を担当</li> </ul>	平成23年度
5	<b>北海道助成・京極町</b> 「有床診療所化に際しての電子カルテ導入および業務改革支援」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国保病院が有床診療所へ転換するに際して電子カルテの導入と業務改革支援等を実施</li> </ul>	平成23年度～

## 実績一覧(2/2)

項番	名称	概要	年度
6	<b>京極町</b> 「住民健康カルテの導入」	・平成23年度総務省の実証事業で用いた「住民健康カルテ」を本格利用して、診療情報と健康情報の統合化を推進、さらに介護連携も検討中	平成24年度～
7	山形県在宅医療推進モデル事業 <b>天童市東村山郡医師会</b> 「ICT利活用による在宅関連多職種連携システム」	・医療情報の共有も可能となるように、ガイドライン要件を満たしたクラウド環境にSNSを構築して、在宅医療を支える多職種チームの情報共有を推進	平成24年度
8	<b>尾道地域医療連携推進特区</b> 「ICTを活用した在宅医療等モデル支援事業」 「尾道地域医療連携推進特区に係る評価分析調査事業」	・規制緩和にチャレンジするモデル事業として、遠隔服薬指導、遠隔診療の実施を支援 ・その評価分析業務を実施	平成24年度～ (3年間の予定)
9	科研費 <b>広島大学病院</b> 「産休・育休中等の女性皮膚科医によるITを用いた在宅・僻地皮膚診療支援」	・在宅医療や僻地医療において、プライマリケア医が皮膚科専門医にコンサルテーションを依頼できるTeledermatologyの環境を、クラウド型カルテをベースに構築	平成24年度～ (2年間10の予定)
10	<b>五島市</b> 「離島の複数の診療所への医療カルテの導入」	・クラウド型の医療カルテを五島市の公設診療所に順次導入中、離島の往診の際に役立てるとともに遠隔からの指示を可能に ・診療所電子カルテ情報の病院への開示について検討中	平成24年度～

## 課題認識と解決の方向性

- 「地域医療介護連携・浦安方式」は、これまでの地域医療連携の課題解決を目指していると認識しています。
- 弊社の過去の経験および提供中のサービスをもとに、システムの構築をご支援させていただきたいと考えています。

### 課題

#### (1) 病診連携における課題

- 連携のための情報システムがないと、返信を受け取り結果を確認するまでに時間がかかる
- 一方病院カルテ開示型の地域医療連携システムでは、多くの情報の中からキー情報を見つけるのは負担が大きい

#### (2) 在宅多職種連携における課題

- 緊急入院や突然の看取りの際に、キーパーソンがわからない、情報が取得できない

### 浦安方式での解決の方向性

- 紹介/逆紹介、在宅医療・介護、病院・診療所の両方で診ているケース等、日常的に複数医療機関・介護施設・事業者等が関わる地域医療・介護連携において、**個人の役割分担を明らかにする**
- 在宅患者や高齢の通院患者については、病院ショートステイを組み合わせるなど**24時間対応可能な後方支援病院を巻き込んだチーム**や、**在宅医同士のチームを早期に確立**する
- **誰が意思決定者かいつでもすぐにわかるようにする**とともに、**連携に必要な情報を明らかにする**

### シームレスな連携を支えるシステムの要件

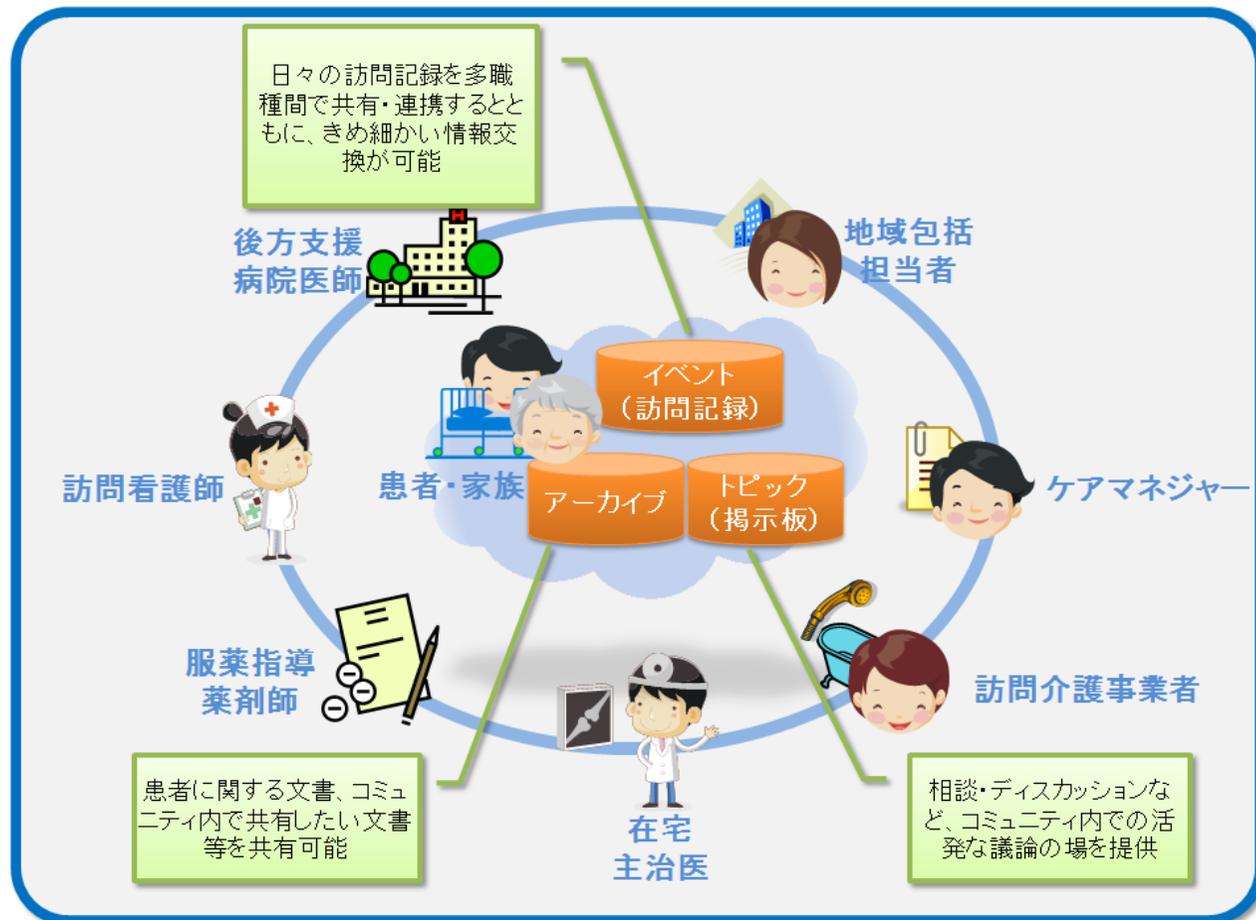
- **いつでもどこからでも患者情報にアクセス可能であること**
- **重要情報、サマリー情報がすぐにわかること**
- **必要に応じて、詳細機能も確認できること**
- **運用費用が安く、継続可能なシステムであること**

## 構築が求められるシステムとは

- 設定変更やカスタマイズが容易、かつ安価な**クラウドサービス**をベースに構築
  - ◀ 継続して「浦安方式」を支えるシステム
  - ◀ セキュアなネットワークで接続しながらも、いつでもどこからでも手軽にアクセス可能
- 「浦安方式」で定義された**患者情報を見やすく表示**・・・緊急搬送時でもすぐに対応可能
  - ◀ 主病名、キーパーソン、認知症ありなし等
  - ◀ チームメンバーの明示
- 頻度の高い紹介／逆紹介は、**キー情報のみをやりとり**・・・実運用上、担当者の業務負荷を考えると重要
  - ◀ 診療所医師の文書作成支援機能
  - ◀ 検査結果を返す病院医師の負荷軽減の方策
- 限られた時間の中で、すぐに重要事項を識別可能な**サマリー機能**・・・実運用上、担当者の業務負荷を考えると重要
  - ◀ 共有すべき患者情報項目とそれぞれの責任者の設定
  - ◀ 設定されたテンプレートからの記録
  - ◀ 記録から重要項目を抽出してのサマリー作成
- 将来の課題・・・**費用対効果**を考え他システムからの情報抽出にどこまで対応するか検討
  - ◀ 調剤情報や電子カルテの医療情報の自動取込(二重入力不要)
  - ◀ 自治体の住民情報と連動させての住民マスタ整備や「名寄せ」機能

## ベースとして想定しているクラウドサービス:「医歩ippo ソーシャルネット」とは

- 「医歩ippo ソーシャルネット」は、患者毎のコミュニティを設定して、その中で多職種により構成されるコミュニティメンバー間の**双方向コミュニケーションを支援するクラウド型のサービス**です。
- セキュアなデータセンタおよびネットワーク、担当患者の情報へのみアクセス可能なコントロール、テンプレート入力等の基本機能を備えているため、今回このサービスを「浦安方式」の要件を満たすようにカスタマイズする予定です。



## 「医歩ippo ソーシャルネット」の特長

1. 医療情報取り扱いの各種ガイドラインに対応しており、医療情報も安全に共有
2. 写真・動画等をその場でクラウドにアップすることにより、(文字のみではない)ICT利活用ならではの正確かつ迅速な状況共有に有用
3. 入力テンプレートや各種設定は、地域の運用に合わせて柔軟に設定可能であり、将来の運用変更にも柔軟に対応
4. 他のアプリケーションとの連携ができ、二重入力することなく情報を取り込むことが可能  
\* 他アプリケーションから標準形式でデータを受け取ることが前提

## システム構築を成功させるための留意点

- システムの構築前に十分に地域で議論の上、役割分担と業務フロー、さらには想定される患者状況遷移などを整理しておくことが重要です。

### チーム体制・役割の 明確化

### 共有情報の合意と 絞り込み

### 情報共有業務負荷削減 のためのシステム支援

- どのような業務フローがあり得るか
- その際に関連する施設はどこか
- 地域の施設一覧、担当者一覧は整備されているか
  
- 実際のチーム体制、担当者は誰か
- キーパーソンは誰か
- 事前の患者・家族の意思確認は、誰が行うの
- 誰が誰と協議すれば、最終意思決定となるのか
  
- どの情報を誰が収集するか
- サマリーにのせるべき意思決定情報は何か

等